

日本作業科学研究会ニュースー作ら， さくらー第1号

発行年月日 2006年12月20日

発行者 日本作業科学研究会

編集責任者 吉川ひろみ

第10回作業科学(OS)セミナー報告

2006年12月2日，3日に藍野大学で「作業と可能性」をテーマに，ボンジェペイター大会長のもとで開催され，OSセミナー史上最多の141名が参加しました。「作業科学とはなにか」(近藤知子)，佐藤剛記念講演「日本の作業科学：佐藤先生からのほじまりとこれからの展望」(小田原悦子)という講演2題の後，一般演題8題『「すべての人に意味のある働く機会があること」を目指した実践-作業科学者の目指す作業的公平 (Occupational Justice) とは?」(港美雪)，「介護老人保健施設デイケアに通所する高齢女性に対する集団ダンスムーブメント活動の心身効果」(渡辺明日香)，「身

体制限を伴う高齢者の自己練習による慣れてきた日常作業を遂行する効力感の変化」(齋藤さわ子)，「担当OTに“OTの実施時期と効果について”フィードバックした事例」(藤本一博)，「The Importance of Anthropology for the Study of Occupational Science 日本の作業科学と人類学」(Mark Hudson，青山真美)「Occupational Anatomy of Hsiao, Filial Piety 孝の作業的構造」(Robin Chang-Chih Kuo)，「作業を通じたライフライシスからの回復：小説の登場人物を用いた事例研究」(近藤知子)，「よい老いのための作業：ウチを作る」(小田原悦子)がありました。

翌日のワークショップでは「Potentiality :



作業にうめこまれた可能性」(浅羽エリック), 「Transitions: 自らの生活活動へともどっていく過程」(ボンジェペイター)の説明の後, 「作業の力と可能性ーあるクライアントの作業(機織り)経験を通して」(田口亮子, 田口佐紀子, 古山千佳子)を聞き, 小グループで potentiality と transition について討議し発表しました。ミニシンポジウムでは「教育と科学: 作業の可能性の探究」をテーマとして「作業の研究なぜは学際的なのか?」(Ruth Zemke), 「作業科学国際シンクタンクの報告」(吉川ひろみ), 「作業療法における心理学の重要性」(飯田英晴)という3題の発表がありました。

盛り沢山の内容で, 2日目昼には, 継体天皇陵散策ツアーもありました。田口亮子さんの手織り作品を購入された方も多く, 心は熱く, 身体は温かくなったセミナーでした。

日本作業科学研究会設立

2006年12月2日日本作業科学研究会が設立しました。発起人9名(浅羽エリック, 岡本珠代, 坂上真理, 西野歩, ボンジェペイター, 港美雪, 宮前珠子, 村井真由美, 吉川ひろみ)が理事として承認され, 西上忠臣, 西方佳子が幹事になりました。本研究会は, 作業科学の研究推進と学問的発展を目的として, 学術研究会の開催, 情報の配信, 研究交流の推進などを行います。94名が入会しました。事務局は札幌市中央区南3条西17丁目(〒060-8556 札幌医科大学保健医療学部作業療学科内)です。その後の理事会で会長に宮前, 副会長に港, 吉川, 事務局に坂上, 機関誌担当に村井, 西野, ホームページ担当に港, 浅羽, ニュース担当に吉川と決定しました。

1日目夜の懇親会で, Zemke氏より Society for Study of Occupation: USA (米国の作業科学研究会)から, 過去の学会でのルース・ゼムキ記念講演のDVDが贈られました。

ホームページは, すでに作業科学の情報満載の <http://www.kiui.ac.jp/~stone/index.html> になりますが, 将来的には会員専用ページの追加など改訂する予定です。

第11回作業科学セミナーご案内

2007年12月1日(土), 2日(日)に岡山県の倉敷市芸文館で開催予定です。港美雪さんを中心に吉備国際大学の皆さんが準備しています。最新情報はホームページからご覧ください。 <http://www.kiui.ac.jp/~stone/index.html>

南カリフォルニア大学(USC)

作業科学シンポジウムのお知らせ

健康と安寧: 作業科学と学際的協働 (Health and Wellness: Occupational Science and Interdisciplinary Collaboration) をテーマに, 第19回作業科学シンポジウムが2007年3月29, 30日に Davidson Conference Center で開催されます。詳細は USC のホームページ <<http://www.usc.edu/schools/ihp/ot/>> をご覧ください。丸二日間, 充実した講演を聞くことができます。作業科学発祥の地を訪れてみませんか。

作業科学者国際協会 The International Society of Occupational Scientists (ISOS) の紹介

1999年に設立され, 世界の健康と安寧と正義の向上を目指し, 作業的性質に従って, すべての人々が平等な機会を得ることに向けて, 研究, 議論, 活動を活発化するために, 個人やグループや組織の世界的なネットワーク作りを意図しています。 <<http://www.isocsci.org/>> 現在, オーストラリアとニュージーランド, アメリカ, カナダ, イギリスとアイルランドの組織が参加しています。将来は本研究会の参加が予想されます。

作業科学専門学術誌

Journal of Occupational Science の紹介

1993年に創刊された作業科学の国際的学術誌です。日常の作業の複雑性をどのように評価するのか、子どもの作業をどう定義するのか、文化の違いによる作業の意味がどのように違うか、作業を継続させる動因は何か・・・作業科学の研究テーマの広がりを実感する論文が掲載されています。年3号発行されていて個人契約ではAUD \$75.00, 組織契約ではAUD \$200.00です。2007年から、論文の日本語要旨が掲載される予定です。注文はホームページ<<http://www.jos.edu.au>>から。作業療法士養成校の図書館に、おいてほしい雑誌です。OSセミナー参加者の港美雪さん, 和田峰子さんの論文も掲載されています。

日本語の作業科学関連図書, 文献の紹介

Zemke, R: 作業科学および作業療法における文化的話題. OTジャーナル31, 962-967, 1997 (ロサンゼルス在住の中国系米国人の死に対する態度が, 西洋人とは異なる点など文化について論じています)

Clark, F. et al (加藤貴行訳): 自立して生活する高齢者への作業療法. JAMA (日本版) 19, 74-81, 1998 (作業科学に基づいた作業療法の効果をランダム化比較試験で実証した研究論文です。OTジャーナル37巻(2003年)8号と10号で, 齋藤さわ子さんが解説しています)

Zemke, R. et al (佐藤剛監訳): 作業科学. 三輪書店, 1999 (原著発行1996年, 過去十数回のUSC作業科学シンポジウムの講演, 大学院の教員や学生の研究論文40編を収録)

Clark, F.A., 宮前珠子: 作業的存在としての人間を研究する作業科学. OTジャーナル 34, 1157-1163, 2000 (USCが作業科学という新しい博士課程を誕生させた経緯が, 対談を通して語られています)

吉川ひろみ: 楽器との出会いから広がる人生. OTジャーナル37, 119-123, 2003 (サンポーニャという楽器と出会った四肢麻痺青年の経験を記載)

村井真由美: 対象者の人生を豊かにする作業療法. OTジャーナル39, 1177-1182, 2005 (高齢者を作業的存在としてとらえた作業療法実践)

日本における作業科学小史

1995年 日本作業療法士協会全国研修会のテーマが作業科学 (佐藤剛大会長) プレワークショップ作業科学開催

1997年 札幌医科大学大学院に作業科学設置

1997~2003年 札幌で第1~7回OSセミナー

1999年 Zemke & Clark 編「作業科学」翻訳出版

2000年 必修科目として作業科学を開講 (広島県立保健福祉大 OT 学科)

2004年 三原で第8回OSセミナー

2005年 浜松で第9回OSセミナー

2006年 日本作業科学研究会設立

編集者からのお知らせ

ニューズの名前は, 「作業科学に集まる人ら」を短縮して「作ら」, 読み方を「さくら」とし, 「作ら, さくら」にしたいと思います。年2回, 12月と6月に発行する予定です。掲載希望の記事がある会員は, 吉川ひろみ yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp まで, お知らせください。

作ったばかりの玉手箱

らく (楽) には開かないこともある

さらっとあきらめ, もう一回

くると回って, もう一回

らく (楽) じゃなくても続けたい